

36 地図はどのように読めばいいのか練習しよう。

地図を読み取る

自ら地図を読むことができると、楽しみが一つ増えます。地図はその範囲の地形をはじめ、さまざまな情報を提供してくれている「宝物の地図」なのです。



ねらい _____

地図をみながら自然の中を歩けるようになる。

達成目標 _____

地図を見るときに大切なポイントを説明できるようになる。



導入 _____

地図を読みとれると、どんないいことがあるか、子ども達の考えを聞く。その後、指導者側からいくつか、こんないいことがある、というポイントを伝える。

本体 _____

まずは地図の上の方が北であること、観察場所の北はどちらなのかを合わせる。地図が示している場所が一望できる場所に行き、地図と照らし合わせながら、地図上のどの部分が実際の地形のどこを表しているのか、探してみる。

ふりかえり・わかちあい _____

地図と地形を合わせてみるのに、大切なことは何か、体験から発見したことを指摘しあってみよう。

まとめ _____

再度、地図を読みとれると、どんないいことがあるか、子ども達と話し合う。

実施のポイント

地形上で目立つものをみつけよう。それが地図上のどこになるのかをみつけることから始める。等高線の尾根と谷(沢)の部分を理解し、地形上の尾根と谷(沢)と合わせてみる。縮尺の意識も持つようにするとよい。

地形模型があれば、地形模型と地図を照らし合わせることをやってもよい。

◆所要時間	60分
◆人数	何人でも
◆関連教科等	総合的な学習の時間、理科、社会
◆焦点を当てる能力	観察する、情報を読みとる、一般化する
◆準備するもの	方位磁石、地図、ワークシート
◆安全のポイント	地図ばかりをみて足元の注意がおろそかにならないように、といった活動中に起こる事故を予測して事前に注意しておこう

評価の視点
 地図をある程度読みとることができるようになること。
 地図を読みとる際に大切なことが理解されていること。
 地図を楽しむことができるようになっているかどうか、をみよう。

発展・応用
 地図を持って歩いてみよう。自然のオリエンテーリングを実施してみよう。地形を見て地図を書いてみるのも面白い。場合によっては、簡単な地図作りを先に行った方が、地図を読みとる力がつくことがある。

オリジナル/自然教育研究センター

地図を読み取る 36

のりしろ

地図をはりましょう。
はんし
 (みわたせる範囲の地図をはりましょう。
 1/10,000 ~ 1/25,000 がおすすめです)

はった地図の情報を書いておきましょう。

しゆくしゃく
 縮尺:
おね
 場所:

- ◆ ほういじしゃく 方位磁石の北と地図の北をあわせましょう。
 (ほんとうは少しずれているのですが、今回はだいたいであわせましょう)
- ◆ 地図上でチェックしてみましょう。
おね
 尾根はどこでしょう?
さわ
 沢はどこでしょう?
じんこうぶつ
 人工物(送電線・学校・工場)はどこでしょう?
- ◆ じっさいに見えている尾根・山・沢(川)は地図の上のどこでしょう。

年 月 日 名前